



撮影 多羅尾牧洋

金沢健一 Vibratile Shape 2018

共振域-Still Life

モートン・フェルドマンの音楽をめぐって

2018年11月13日(火)-25日(日) 月曜休館
川越市立美術館アートホール

共振域-Still Life

モートン・フェルドマンの音楽をめぐって

2018年 11月 13日(火) - 25日(日) 観覧無料

開館時間 9:00-17:00 月曜休館

会場 川越市立美術館 2F アートホール / 主催 金沢健一 / 共催 川越市立美術館



“共振域-Still Life モートン・フェルドマンの音楽をめぐって”では、「音＝振動」の側面から、鉄という素材や、音楽を捉えてみる。《共振域》は、振動スピーカーを取り付けた鉄板に音楽を流し、その音に共振することで鉄板は振動する、さらに上に置かれた金属やガラス、石なども振動し、音をたてるといった単純な仕組みのサウンド・インスタレーションであるが、音の周波数、音色、強弱などにより鉄は様々に反応する。

モートン・フェルドマン(1926-87)は、ジョン・ケージとともにアメリカの実験音楽の代表的な作曲家であり、図形楽譜による音楽、晩年はいくつもの旋律の反復が現れては消えてゆく淡々とした音の流れの中に緊張感が持続する長大な音楽に到達する。

今回、「Still Life」と題し、テーブル状に仕立てた鉄板とその上に置かれた物が、フェルドマンの音楽とどのように共振し、どのような反応を示すのか、それは鉄という素材と音楽のコラボレーションであり、目と耳で観察する音楽とも言えるだろう。

他に振動の物理現象であるクラドニ図形を基にした平面作品の展示、またワークショップ、パフォーマンスを通して、素材-形-音の関わりや、美術や音楽の接点を探ってみたい。

[関連イベント]

■ワークショップ 「振動という現象 - クラドニ図形から絵画へ」

内容: 面状の物体を振動させると、振動している部分(振動の腹)と振動していない部分(振動の節)ができる。例えば鉄板に砂を撒き、振動させると振動の節の部分に砂が集まり、幾何学的とも有機的ともいえる不思議な模様が見られる。この図形はクラドニ図形と呼ばれ、200年前に科学者のクラドニにより発見された現象である。ワークショップでは円や正方形の鉄板を使ったクラドニ図形、さらに不定形の鉄板によるクラドニ図形を応用した絵画を試みる。

日時: 11月17日(土) 10:00~16:00 講師: 金沢健一

会場: 川越市立美術館 創作室

対象・定員: 小学5年~大人・10名

参加費: 2,000円(材料費:鉄板、ゴムなど、制作した作品は持ち帰れます。)

申し込み: 11/1(木) 9:00から、電話、FAXにて美術館まで。

■パフォーマンス 「振動というできごと」

内容: 鉄板の振動とさまざまな素材や物との接触から得られる音や視覚的な現象を探るパフォーマンス。

日時: 11月25日(日) 15:00~16:00 無料(申込不要)

会場: 川越市立美術館 2F アートホール 出演: 金沢健一、浦裕幸(音楽家)



金沢健一 Kenichi Kanazawa (彫刻家)

1956年東京都生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科修了。工業製品としての鉄を素材に、幾何学的な形態による構成的な作品、また音、振動といった物理現象を利用した作品を制作する。多くの美術館で展覧会、パフォーマンス、ワークショップを展開している。主な展覧会として、「共鳴する空間 金沢健一 音のかげら」新潟市新津美術館、「はがねの変相-金沢健一の仕事」川崎市岡本太郎美術館、「金沢健一展 出発点としての鉄 1982-2011」川越市立美術館。

[交通案内]

- 東武東上線・JR 埼京線(川越線)「川越駅」西口2番のりば、西武新宿線「本川越駅」から小江戸巡回バスで「博物館美術館前」下車
- 同「川越駅」東口3番のりばから小江戸名所めぐりバスで「博物館前」下車
- 同「川越駅」東口7番のりば、「本川越駅」5番のりばから東武バス「川越運動公園/埼玉医大/上尾駅西口」行きで「市役所前」下車徒歩5分
- 同「川越駅」東口1・2・4・5・6番のりば、「本川越駅」5番のりばから東武バス「蔵のまち」経由で「札の辻」下車徒歩8分



川越市立美術館

〒350-0053 埼玉県川越市郭町 2-30-1
tel.049-228-8080 fax.049-228-7870
<https://www.city.kawagoe.saitama.jp/artmuseum/>